

特集　— 時空を超えて語りかける

漢文

KANBUN

中国の古典である
とともに日本の古典
ともいえる漢文が
今、世界中に
その輪を広げています。
あなたの知らない
「生きた」漢文が
ここにあります。

実はとても身近な 漢文の世界

漢文訓読は日本語や日本文化にとってとても大事なものです。

近年、訓読論の出版が注目され、訓読国際シンポジウムが盛んに催されるなど、盛況なシーンを見せていました。

そこで「漢文」の今を、文学部中国文学科の佐藤進教授に伺いました。

【日本人にとっての漢文】

が、そこで平安文学の語彙は「いと」など既に死語になった言葉が多いけれど、

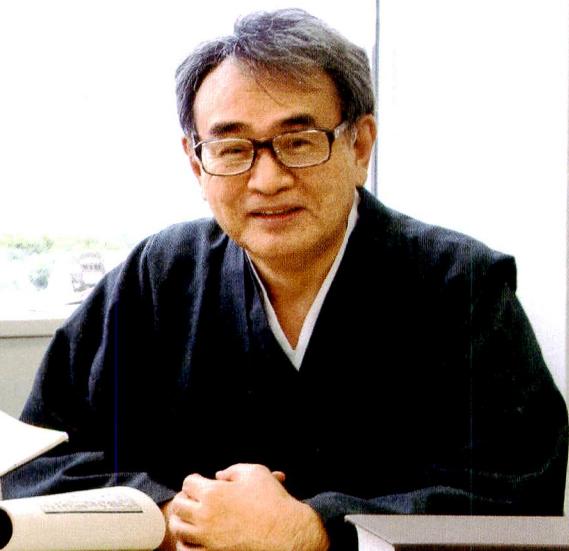
今、欧米やアジア諸国など世界各国に漢文研究の輪が広がっています。マンガやアニメなどのサブカルチャーから日本文化の研究をはじめた海外の学生や研究者たちの多くが、より深く日本

を知るべく、日本の古典文学や芸能を学ぼうとして漢文の壁につきあたり、そこから漢文研究を深めています。なぜならば、資料の多くが漢文や漢文訓読体で書かれているからです。

国内でも、センター試験に漢文を選択する生徒が少なくありません。高校の先生たちは理解できないようです

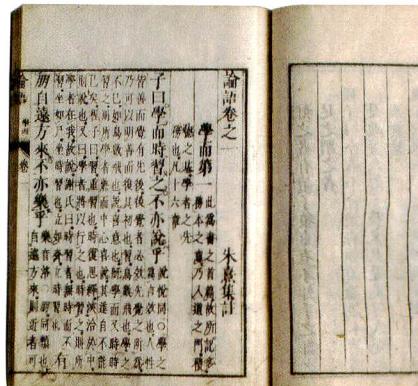
訓読用の語彙は「はなはだ」のようなど既に死語になった言葉が多いけれど、今でも使うので、取つきやすいのですよ」と説明すると「ああ」と納得されます。

ではなぜ漢文訓読用の語彙が伝わり、平安文学の言葉が亡びたのでしょうか。恐らく、律令時代から明治まで、法令などの公用文は漢文が原則だったからでしょう。明治になると漢文ではなくなりますが、それでも訓読体が普遍で、民法の条文が口語体になったのは二〇〇五年からです。漢文や訓読文はずっと我々の身边にあり続けました。



文学部中国文学科 教授
佐藤 進
SATO Susumu

専門は中国古典学。三省堂『全訳・漢辞海』の編集執筆を行い、現在第三版刊行中。日本漢文教育研究プログラム・リーダー。東アジア学術総合研究所長。



四書集註「論語集註」より

明治の普通文と 現代の文語文

明治政府が公用文を訓読体で書いたのは、確かにそれまでの公用文は漢文が原則だったからですが、当時は標準的な日本語の文体がなかつたからでもあります。

江戸期に流行した候文は、明治を経由して急速に衰退します。口語性の濃厚な語法から発達しただけに、口語をより忠実に写す言文一致体に取つて代わられました。

しかし、言文一致体が成熟するのはもつと先で、明治から大正にかけては訓読体をもとにした「普通文」で書くことが定着しました。これがその後の文語文の骨格となり、戦後になつても文語文といえば訓読体が意識されるようになります(たとえば吉田満『戦艦大和ノ最期』など)。

雪の或る日、中宮定子が清少納言に「香炉峰の雪はいかなるむ」と問うと、清少納言は御簾を高く巻き上げてみせた『枕草子』能因本^{かぶね}（七八段）という。これなれば彼女の漢才を示すものとして周知であろうが、注目すべきは、その後の一文「みなさる事は知り、歌などにさへうたへど」云々という他の女房の言で、つまり、それが『白氏文集』に見える律詩に発する事だとは私たちも知つていて歌にも詠うと言つ

する漢文学

しかし、言文一致体が成熟するのはもつと先で、明治から大正にかけては訓読体をもとにした「普通文」で書くことが定着しました。これがその後の文語文の骨格となり、戦後になつても文語文といえば訓読体が意識されるようになりました(たとえば吉田満^{タツ}による『戦艦大和ノ最期』など)。

別な世界があるのでした。三年ほど前、奈良の東大寺で新羅語の送り仮名が書き込まれた仏典が発見され、その仮説が俄然説得力を持つようになりました。

訓読は世界性をおびています。漢文がうつかりすると身にまといがちな、かびくさい忠臣愛国的な思想とは全く

訓読は原文の文法構造を改変しま
すが、漢字表記は最大限に維持するか
らです。卓抜な翻訳法ですが、これを
日本独自のものというのは時代遅れの
話です。以前から訓読法は朝鮮半島
から学んだのではという仮説がありま
した。三年ほど前、奈良の東大寺で新
羅語の送り仮名が書き込まれた仏典を
が発見され、その仮説が俄然説得力を
持つようになりました。

中国古典を原文で深く味わうには、中国文語文の語彙や語法の突つ込みなど学習が必要になりますが、一般的の読者が少しでも原文の雰囲気を味わうには、訓読みの働きをします。

〔漢文訓読というものの〕



文学部国文学科 教授
磯 水絵
ISO Mizue

二松学舎大学附属図書館長。文学部国文学科教授。大学院国文学専攻主任。中世文学・説話文学・日本音楽史学等が専門。著書に、「説話と音楽伝承」、「院政期音楽説話の研究」、「源氏物語」時代の音楽研究」「大江匡房」がある。



フランスからの留学生として、平成23年3月に本学の博士号を取得したヴィグル・マティアス氏。現在は中国文学科非常勤助手として在籍。中国文学科研究室での佐藤進教授とのひとコマにお邪魔しました。